

1 内政

新ポンペイ州最高裁長官が就任

6日、公金横領等で訴追されている前ポンペイ州最高裁長官の辞任に伴い、右にかわって最高裁長官代行を努めていたネルソン・ジョセフ判事が州議会で満場一致の承認を得て新長官に就任した。

（11月6日付カセリエプレス紙）

ポンペイ州検察、脱税や労働法違反对策のための特別ユニットを設置

10日、ポンペイ州検察は脱税や労働法違反对策のための「ホワイトカラー犯罪対策ユニット」を設置したと発表した。

（11月10日付カセリエプレス紙）

連邦環境・気候変動・危機管理省が設置される

10月30日から11月3日まで開催された連邦議会特別会期で、1日、環境・気候変動・危機管理省（Department of Environment, Climate Change, and Emergency Management）の設置が承認された。右はこれまでのOEEMが省として昇格するもので、初代大臣（Secretary）には、これまでOEEMの局長だったアンドリュー・ヤティルマンが就任した。

（11月15日付カセリエプレス紙）

ポンペイ州議会、家庭内暴力反対法に関する法案を採択

17日、ポンペイ州議会は、これまで9年間審議を続けてきた家庭内暴力を禁ずる「ポンペイ州家族安全法」を可決し、ピーターソン州知事がこれに署名した。2014年に行われた調査によれば、約3分の1の女性が家庭内で暴力やセクハラを受けていると言われている。

（11月17日付カセリエプレス紙）

前ポンペイ州最高裁長官への公判がはじまる

30日、公金横領等で訴追されている前ポンペイ州最高裁長官への公判が12月18日に開始される旨が発表された。

（11月30日付カセリエプレス紙）

2 外交

クリスチャン大統領が日本を公式訪問

クリスチャン大統領は10月23日～26日まで日本を公式訪問した。滞在中、天皇陛下と会見した他、安倍総理との間で首脳会談を行った。また、森元総理や古屋友好議連会長他とも会談した。今回が、クリスチャン大統領就任後、私的訪問も合わせると4回目の訪日となる。訪日にはロバート外相が同行した。

(11月15日付カセレリエプレス紙)

ジョージ副大統領、気候変動枠組条約締約国会合(COP23)に出席

16日、独ボンで開催中の気候変動枠組条約締約国会合(COP23)に出席しているヨシヲ・ジョージ副大統領は総会にて気候変動で大きな被害を受けている島嶼国に対する国際社会の更なる支援・取り組みを求めるスピーチを行った。

(11月17日付カセレリエプレス紙)

在オレゴン領事館の新設

18日、ミクロネシア政府は、米オレゴン州ポートランドに、米本土では初となる領事館を開設した。開設式にはクリスチャン大統領やシミナ連邦議会議長、エリモチューク州知事、スサイア駐米ミクロネシア大使他が出席した。同領事館は米国内で3カ所目となるミクロネシアの領事館であり、オレゴンの他、カルフォルニア、ワシントン、アリゾナ、アイダホ、ユタ、ネヴァダ、ニューメキシコ州を管轄する。

(11月3日付大統領府HP)

当地豪大使館、5Kmマラソン大会を開催

25日、当地豪大使館は家庭内暴力を禁ずるポンペイ州家族法の制定を記念し、コロニアで5Kmのマラソン大会を行った。マラソンには長年本法案成立に携わったシェルトン・ネッチ州議員も参加した。

(11月25日付カセレリエプレス紙)

3 経 済

漁業会社は違法操業や食の安全担保のための機関設立の重要性と緊急性について要請

漁業の隻日数制の導入と入漁料の増加に悩んできたミクロネシア連邦の排他的

経済水域で操業する漁業会社は、ミクロネシア連邦内にマグロの加工工場を建設すれば、操業コストの削減と入漁料について特別な配慮を与えるとのミクロネシア政府の方針に興味を示してきた。これに関連して、国家海洋資源管理局（NORMA）は数社との協議の場でコスラエ州に冷蔵倉庫を、また、コスラエ州とポンペイ州に切り身工場の建設を打診したが、出席した漁業会社は、IUU漁業（違法・無規制・無報告漁業）の取締りやEU等の市場に輸出する際に要求される食の安全性を担保するための機関（CA）を設立することが先決であると繰り返した。大洋州でCAが設立されている国はパプアニューギニアとフィジーとキリバスのみであり、NORMAは2年以内にCAの設立を目指す。加工工場がミクロネシアに建設されれば、150人から800人の雇用を生み出すことになる。

（11月20日付カセレリエプレス紙）

4 経済協力

チューク州、ゴミ問題解決に向け JICA と協働

八王子市との協働プロジェクト、太平洋島嶼部におけるゴミ問題改善—ミクロネシアチューク州での協働型2R 推進プロジェクト—が11月より開始された。期間は2020年2月までであり、目的は①2R（リデュース・リユーズ）を通じて環境を保全することと②ゴミ収集サービスを継続して実施することである。チューク州政府環境保護局（EPA）がカウンターパートとなり、コミュニティ団体と共にプロジェクトを推進する。プロジェクトチームはチューク州滞在中にチューク州政府運輸公共事業局（TPW）とチューク女性協会（CWC）の代表者とも面会した。ゴミ収集サービスは EPA と TPW が協働で行い、CWC は2R をコンセプトに古着で買い物袋を作成し、毎月最終金曜日に販売する予定。古着で作られた買い物袋の使用を推奨し、いずれはプラスチックバックの使用を法律で禁止したい意向。チームはポンペイ州も訪れ、日本大使館や環境・気候変動・危機管理省等を訪れ、プロジェクトの概要や期待される結果などについて説明した。

（カセレリエプレス紙）

リー中国大使、チューク州とヤップ州を訪問し経済協力につき協議

2日から7日にかけてリー中国大使はチューク州とヤップ州を訪問した。チューク州では州議長と面会し、チューク州政府庁舎の建設や奨学金プログラム、道路建設について話し合った。リー大使は州庁舎の建設現場を訪れ、独立記念日イベントに参加した。ヤップ州では大使率いる農業専門家が州知事、副知事、議長、議員と面会した。両国は農業開発、漁業、奨学金プログラム、職業訓練、観光等について話し合った。また海南区からの寄付によるパソコンとプリンターの引き渡し式を行った。また、マイ

クロネシアンゲーム委員会と面会し開催への準備や共同プロジェクトについて話し合った。他にもミクロネシア短期大学ヤップキャンパス、ヤップ高校、SDA 高校を訪れ奨学金プログラムの説明を行った。

(11月24日付 中国大使館 HP)

中国贈与の飛行機がミクロネシアに到着

中国政府は、2013年に行われたミクロネシアからの要望を踏まえ中国 AVIC Harbin 社製造の飛行機、Y-12E を贈与した。飛行機は、貨物輸送や救助、医療サービス等に使用される予定。

(11月10日付 カセレリエプレス紙)

「チューク州ザビエル高校図書館再建計画」贈与契約署名式

8日、草の根・人間の安全保障無償資金協力による「チューク州ザビエル高校図書館再建計画」贈与契約署名式がザビエル高校で開催され、80,491米ドルがチューク州ザビエル高校に供与された。

当該プロジェクトは、ザビエル高校において、生徒の学習環境及び教師の教育環境を改善するため、図書館を再建するもの。本件実施により、1)効率的な自習時間を確保できるようになり、生徒の学習環境が改善される2)効率的な授業準備ができるようになるため、教育環境が改善されることが期待されている。

式典上の挨拶において、カール校長はまず始めに、長年に渡る日本からザビエル高校への支援に対して感謝の意を表し、本計画により再建される図書館がザビエル高校と日本の新しい友好の記念になるだろう、と述べました。これに対し、堀江良一大使は、学校に到着した際に受けた生徒と先生による暖かい歓迎に感謝の意を表し、本計画によりザビエル高校の学習環境が改善され、また、日本とミクロネシア連邦の絆がさらに深くなるだろう、と述べた。

(11月15日付カセレリエプレス紙)

5 文化・教育

日本大使、ミクロネシア JICA 同窓会に対して公館長表彰を授与

8日、チューク州に出張した堀江日本大使は、同地で開催された JICA 同窓会総会に出席し、同会が長年日本と FSM の友好関係強化に貢献したとして公館長表彰を授与した。17日、ポンペイ州においても大使公邸にて祝賀会を開催し、来賓として招待されたプレトリック外務大臣代行はこれまでの同窓会の活動を評価しつつ、今後とも日本と FSM の友好関係強化のため活躍を期待するとの祝辞を述べた。同窓会は 2006 年 11 月に設立され、これまで日本で

研修した累計594名の研修員のうち、129名が同窓会メンバーとして活動している。

(11月17日付カセリエプレス紙)

当地中国大使館、中国FSM国交樹立28周年を祝う5Kmマラソンを実施

14日、当地中国大使館は中国FSMの国交樹立28周年を祝う5Kmマラソンをコロニアで開催した。プレトリック外務副大臣が表彰式に参加したほか、ポンペイ州警察、同州病院、ミクロネシアオリンピック委員会他が協力した。

(11月14日付、当地中国大使館HP)